



令和4年度 猪名川町立猪名川中学校

学力向上プラン

めざす生徒像

- ◇場面に応じて、自ら考え、判断し、行動する生徒
- ◇自他の命と人権を尊重する生徒
- ◇仲間と協働して課題解決に向かえる生徒
- ◇豊かな発想で、チャレンジする生徒

私たちがめざす学校
『未来(あす)を生きる人間力が育つ学校』
□自律 □尊重 □協働 □創造

令和4年度の「学力向上プラン」を以下のとおり定め、本校における全ての教育活動を通じて、全職員が一丸となって全校生徒の学力向上に取り組めます。

【本校全体の学力向上に向けた課題】

- ・受動的に受ける授業から、主体的に受ける授業へ転換するために、生徒と教師が共に学ぶ意味を探求する姿勢
- ・自分自身が考えていること、感じていること、わからないことを「言語化」することへの苦手意識
- ・「わかる」「できた」を実感できる授業を展開した上で、「自ら学ぶ姿勢」を育むための家庭学習の定着

【国語】

- ・グループワーク等の活動を通して、主体的に仲間と深く関わり合いながら、話す、聞く力を伸ばしていきます。
- ・集中力を持続させるため、いくつかの活動を組み合わせ、楽しみながら成長する授業を展開します。
- ・個々で考える時間を確保し、各単元の振り返りでは学習の定着を目指します。

【数学】

- ・教具やデジタル機器などを活用し、わかる・おもしろい授業づくりをしていきます。
- ・数学的活動を意識した課題の設定をしていきます。
- ・個々で考える時間の確保、班学習など学び合う授業を展開していきます。
- ・過去の学習を振り返る機会の設定をしていきます。

【社会】

- ・タブレットを活用し、生徒がわかる・おもしろいと思える授業づくりをしていきます。
- ・生徒に疑問を持たせ、学びたくなる「問い」にこだわった授業をしていきます。
- ・個々で考える時間の確保、班学習など生徒同士が学び合う授業を展開していきます。
- ・過去の学習を振り返る機会の設定をしていきます。

【理科】

- ・教科書だけでなく、本物体験(観察実験)を通して、生徒の主体的に学習しようとする意欲を高めていきます。
- ・反転学習における教え合い活動を通して、学習意欲を育てていきます。
- ・単元自由研究における探究活動を通して、主体的に学び、課題解決能力を身につけていきます。

【英語】

- ・これまで各学年、さらには各教師頼みの授業が多かったので、学年だけでなく、3学年すべてを含めて、一貫性のある授業内容(振り返り、目標設定など)を行っていきます。
- ・語彙力は必ず必要な力となるので、はば単テストや普通の教科書の内容から、語彙力の定着に着目した授業を展開していきます。

【音楽】

- ・生徒一人ひとりの個性を尊重する中で、得意、不得意にかかわらず、皆が輝ける学習環境を作っていきます。
- ・他者理解をする環境を作る中で、一人ひとりが主体的に頑張れる環境を作っていきます。
- ・「生徒」と「教師」という枠を超えて、生徒たちと共に育む「共育」を実践していきます。

【美術】

- ・自分自身で主題を強くイメージしやすい題材設定をしていきます。
- ・意見交流をする時間を取り入れ、お互いの良いところに気づき、言語化して伝える力を伸ばします。
- ・仲間の作品を鑑賞し合うことで、自分のイメージを広げ、自身の作品に足りないものを感じるなど、自分の作品をより深められる機会を作っていきます。

【保健体育】

- ・「できる」喜びを感じることができ、また、できたことにより運動のコツをつかみ、仲間にアドバイスができる環境を作っていきます。
- ・運動に対する思考力を高め、共に学ぶ「教え合いの学習」を目指していきます。
- ・指導者のより具体的な助言に加えて、学習カードを利用し、ポイントや学習の仕方についてメモをとる授業を展開していきます。
- ・どの生徒も意欲を高められるように授業を進めていきます。

【技術家庭科】

- ・「縫い物」や「木工作业」などの知識に加え、リメイク、DIY、またその性質を主体的に考える授業を、映像や身近にあるものを作って見せることで実生活に結びついた授業をしていきます。
- ・授業で学んだ知識をもって、持続可能な社会に向けて、自分に何ができるかをSDGsの項目を使って考えさせていきます。

知識・技能などの基礎・基本の確実な定着

- ① 授業において「本時の流れ」と「本時の目標」を提示し、視覚的にわかりやすい教材や板書の工夫に力を注ぐことで、授業のユニバーサルデザイン化を更に推進する。
- ② 毎授業における「振り返り」の時間を確保することで、要点の定着を図る。
- ③ 生徒のニーズも高く、学習意欲を高めるためにも、ICT機器を活用し、わかりやすい授業の工夫をする。
- ④ 集中しやすい教室環境を整えた上で、学習規律を伝え、どの生徒にとっても落ち着いて参加できる授業を目指す。
- ⑤ 個々のつまずきを早期発見するための方策を行い、その結果を授業の進め方にフィードバックしていく。
- ⑥ 新学習システムによる同室複数指導や少人数（-halfサイズ）授業を最大限に活用し、きめ細かい学習指導に力を入れる。
- ⑦ サポートの必要な生徒に放課後学習の場としての「ノー部活デイ放課後学習会」の充実を図る。

「言語活動」の充実

- ① 朝読書を実施し、活字に親しむことを習慣化させる。
- ② 図書室の整備を推進し、貸し出しを増やすことによって読書活動を活性化する。
- ③ 学活の時間を中心に、年度初めはエンカウンタープログラムにより、生徒同士に交流することの楽しさを体感させ、年度末には、修了宣言の発表を行うことで、自他の成長を認め合う場とする。
- ④ 行事ごとの振り返りで、自らの体験をことばで表現する取り組みを推進する。
- ⑤ 道徳や総合の時間を中心に、テーマに沿った話し合いを行うなどそれぞれの立場に合った意見の組み立て方を学ぶことを進める。
- ⑥ 学校生活のあらゆる場面で、望ましい会話や言葉遣いについて指導する。
- ⑦ 教員がコミュニケーションスキルについての研修を深め、言語による伝えあいによって生徒間の相互理解の深化をはかる。

思考力・判断力・表現力、活用する力の育成

- ① 情報を整理した上で、根拠を示して、自分の意見を組み立てる方法を教えていく。
- ② プレゼンテーションソフトやプレゼンテーションのためのテンプレートを活用して、生徒によりわかりやすく伝える力をつけさせる。
- ③ 友達の発表を観点ごとに客観的に評価し、その良いところを自分の学習に活かす力を育てる。

「家庭学習」の充実

- ① 保護者と連携し、起床・就寝時刻を含めた規則正しい生活リズムの確立を図る。
- ② 携帯電話（スマホ）やゲーム機器等の使用について、情報リテラシーの意識の浸透を図り、家庭内での約束ごとの大切さを保護者にも伝える。
- ③ テレビやゲームなどに費やす時間を決める。
- ④ 新聞やニュースに目を通すことや、家庭での話題にも取り上げることで、政治や社会の問題について関心を持てるようにする。
- ⑤ 「1人1台タブレット導入」を視野に入れて、オンライン学習の整備と導入を図る。
- ⑥ 学校生活や友人について、また今子供が興味を持っている分野について等、家庭で出来る限り時間を取って、話し合うことの必要性を呼びかける。